

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 1 LESSON 9 授業例①

T.K. 先生

指導計画表 (全8時間)

時間	学習内容・主な活動
1	<ul style="list-style-type: none"> ■GET Part 1 ・規則動詞の過去形の導入, 口頭練習 ・本文導入, 内容理解 ・本文の音読練習
2	<ul style="list-style-type: none"> ■GET Part 1 ・規則動詞の過去形を用いてペアワーク (Practice2, 3) ・本文の復習 音読 ・Part 1 のエマのアルバムにある写真を見ながら説明を付け加える →不規則動詞の過去形の導入
3	<ul style="list-style-type: none"> ■GET Part 2 ・規則動詞, 不規則動詞過去形の復習, 口頭練習 ・過去形の疑問文・応答文・否定文の導入, 口頭練習 ・本文導入, 内容理解と音読練習
4	<ul style="list-style-type: none"> ■GET Part 2 ・過去形全般の口頭復習, Q&A 等 (教師→生徒) Word Corner の表現を含めながら。 ・本文の復習 音読 Q&A ・ペアワーク (Practice 2) ・writing (Practice 3 からさらに発展させて, ある1日を選んで日記を書く。
5	<ul style="list-style-type: none"> ■USE Read ・本文全体を読み, 要点をつかむ ・エマの春夏の経験を詳しく読み取る ・春夏の部分の音読練習

時間	学習内容・主な活動
6	<ul style="list-style-type: none"> ■USE Read ・春夏の復習 音読 Q&A ・秋冬の部分の詳しい読み取りと音読練習 Q&A ・Post-Reading 「つながり」について
7	<ul style="list-style-type: none"> ■Four Seasons in Our Town ・ALT の先生への質問を考える ・ALT に質問をする ・答えてもらったことを元にして ALT の自分が住んでいる町での体験をまとめる
8	<ul style="list-style-type: none"> ・第7時の続き 文章の構成を考え, さらに練り直しをする ・できた紹介記事をグループ毎に発表する

実践例

1. 教科書題材に息を吹き込む

日頃、教科書をいかに「教科書」だけに留めないかということを考えて授業を行うようにしている。教科書に出てくる本文・題材が「自分たちから離れているもの」ではなく、それをを用いて自分たち自身の事が表現できると、教科書が“無味乾燥”なものではなく、「生きた英語」学習になるのではないかと思う。よく言われている「教科書『を』教える」のではなく、「教科書『で』教える」でありたい。

LESSON 3 で自己紹介文、LESSON 6 で友達や家族の紹介文、LESSON 8 で学校紹介を書かせるという活動は、どの先生もやっていることであろう。そういった単元だけではなく、1年生の段階から教科書本文を学習した後は、可能な限り、それを元にして会話を変えて作らせている。例えば、

LESSON 3 GET Part 2 では

- A: Do you know *shogi*?
 B: No, I don't. What's *shogi*?
 A: It's like chess. I use this *koma* for *shogi*.
 B: Do you play *shogi* every day?
 A: No, I don't. I play it on Sundays. It's fun.

LESSON 5 GET Part 2 では

- A: What's your favorite sport?
 B: It's *tennis*.
 A: Oh, *tennis*. Where do you play it?
 B: I play it at *tennis court of my school*.
 A: When do you play it?
 B: *Every day*. It's fun.

のように、教科書本文を大枠にして、実際に自分の事を話せるようにする。それを書くだけではなく、できるだけペアでの発表の形にまで持っていくようにしている。

発表が有効なのは、特にジェスチャーをつけて言うのがいいであろう LESSON 4 GET Part 2 のような会話である。ここでは新出文法 How many~の他にも1年生にとってはわかりづらい *these* や *those* といった語句が出てきているので、ペアでこの会話にジェスチャーをつけて演じさせた。These, those がわかるようなジェスチャーのみならず、I see four. のところで、実際に数をカウンターで数えるジェスチャーを行ったり、They come from the south. の

ところで南を向いて手で指し示したりし、体で言葉を習得していく様子が見られた。

また、会話だけではなく、LESSON 7 USE Read では wheelchair basketball の規則の部分 ㉔ を元にしなが、自分が選んだスポーツの規則を can や can't を用いながら英語の文章で書く活動を行った。テニス、野球、バレー、サッカー、バスケットボールなど自分の所属する部活の種目を書く生徒が多かったが、「最初は無理だと思ったが、英語でこんなふうには書けるとは思わなかった。自分でもびっくりした。」「英語で書けてうれしかった。」などの感想があった。

LESSON 8 では、実際に自分達の中学校について説明文を書き、学校のホームページに載せてもらった。『自分の書いた文がのっていてすごくうれしい。日本人だけじゃなく、世界中の人が見られるのかと思うとわくわくする。』と生徒が日記にも書いてきた。

2. LESSON 9 における授業づくり

このように1年間英語を学んできた生徒達であり、LESSON 8 でホームページに自分達の作った文章を載せるという大きなプロジェクトを行い、達成感を持ったところなので、引き続き『表現』活動に重点を置きつつ授業を行う。

まず GET Part 1, Part 2 ではエマの体験を主軸において導入しつつ、自分自身の体験を話したり聞いたりという活動を行って動詞の過去形、疑問文応答文の定着をはかる。

そして、USE Read では、はじめにエマの日本の四季毎の体験をざっと読み取ったあと、細かく読んで理解し、音読練習を行う。

その後、“Four Seasons in Our Town”ということで、4月から本校に来ているALTの先生がこの町で体験したことについてインタビューをし、英語で書いてまとめる活動に入って行く。

まず、自分達の町の四季毎に特徴的な行事や文化をあげ、ALTの先生に聞く質問を考えていく。

3. Reading→Speaking→Listening
→Writing 4 技能の統合

ALT への質問を考える際に、生徒達は最初にやはり教科書の USE Read の文章を読んで、それを参考にしながら英文を作っていこうとする。

[Spring]

①Did you have an 'ohanami' party in the town?
もし Yes, I did. という答えが返ってきたら

②Did you see the famous cherry blossom tree ?

③Where did you go?

④Did you eat under a cherry tree?

⑤What did you eat under a cherry tree?

⑥Did you drink sake?

⑦Did you have a lot of fun?

⑧What did you do in the town in spring?

[Winter]

①Did you eat 'ozoni'?

②Did you play 'karuta'?

③Did you go to the shrine or temple?

ただし、夏、秋については教科書の文章はなかなか自分達が思ったようには使えず、自分達独自で考えていくことになる。

そして、その過程において、自分達の地域独自の四季折々の行事や文化について考えるとともに、ALT の先生が何をしたかについて、細かく思いをめぐらせることとなる。

[Summer]

①Did you go to the summer festival on July 30?

②Did you dance the obon dance?

③Did you see the dancing?

④Did you eat 'takoyaki'?

⑤What did you eat at the summer festival?

⑥Did you see fireworks ?

⑦What did you do at the summer festival?

⑧Did you have a good time?

35 人の学級で、生徒の力の差は大きい。質問文を発想豊かにどんどんと書いていける生徒もいれば、1 文目ですら、なかなか書けない生徒もいる。

そこで、このような活動を行う時には、最初は個人で考える時間をとるが、その後 4 人グループを作って、互いにアイデアを出し合ったり、文の作りを教え合ったりしながら質問文を練っていくようにする。

次に、実際に ALT の先生に質問をする。グループ毎に質問は行っていくが、同じ生徒ばかりが質問をするのではなく、1 人 1 文以上は必ず言うことをルールとしておく。すると、グループの中で助け合いながら、英語を苦手とする生徒でもなんとか質問をすることができる。そして相手に答えてもらうことで、英語が「使えた」「通じた」という喜びや達成感を味わうことができる。

さらに ALT の先生には、生徒の質問に対して、ただ単に 1 文で答えるのではなく、内容を広げて答えられる部分は、できるだけ既習表現で付け加えて答えるようお願いをしておく。例えば、[Summer] ④の質問 (Did you eat 'takoyaki'?) に対して、Yes, I did. だけの答えではなく、

Yes, I did. I love 'takoyaki'. So I ate a lot of 'takoyaki'. How about you? Did you eat 'takoyaki' at the summer festival, too?

のように答えてもらう。このようにすれば生徒達は大切な情報を、メモを取りながら聞いたり ALT と楽しんで会話をすすめたりするようになる。

こうして聞き取った内容を、次に英文でまとめていくようにする。ここでもまず個人で考える時間をとった後で、さきほどの 4 人グループで練っていく。

[Summer] July 30

John and his friend went to summer festival. He didn't dance the obon dance, but he saw the dancing. He loves 'takoyaki'. So he ate a lot of 'takoyaki'.

He ate 'yakisoba', too. His friend ate yakitori. They like Japanese food very much.

His friend said, "Let's catch gold fish." John caught three gold fish.

They saw beautiful fireworks in the park. At the end, everyone clapped hands.

4人で1つの紹介文を作り上げていく活動では、配布した付箋や細い短冊用紙に1文ずつ書きながら、内容や文構造、文構成を練り直したり、ホワイトボードで加筆修正したりしながら紹介文を練り上げていく姿が見られた。そして、今年度から本校ではICT環境が整備された。そこで前述の活動を、iPad等を用いて行えそうである。例えば画面上で試行錯誤しながら入力した紹介文などを、そのまま大画面に映し出すなどしてグループ発表をさせたり、全体で比較検討させたりする活動もスムーズに効率的に行えそうである。

また、今回この単元では行わなかったが、LESSON 8で行った学校紹介のように、授業で作成した生徒の英文を、実際に学校や町のホームページに載せてもらい、地域に発信していくことで、生徒のさらなる英語表現への動機付けを行っていきたい。

4. まとめ

1年生からこのように、教科書をもとに4技能を統合させた活動、特に表現活動に重点を置いて取り組んできたことにより、生徒達は「英語で表現」することを臆せずに行うようになってきている。ある時には、教科書の会話文から身近なスキットを作成したり、聞き手を意識して楽しんでもらえるような工夫をして会話活動を行ったりする生徒達の発想力や表現力にはいつも驚かされる。

また、1人1冊ノートを用意して、ALTの先生と交換日記を行っているが、間違いを恐れずどんどんと英語で書いてくる生徒が多く育っていて、うれしい限りである。

これからも、教科書を「味付け」しながら、「生きた」「使える」英語の力をつけるような指導を工夫していきたいと思う。